

ゲームの目的

本商品は、ひらがな1文字が書かれたひらがな駒を使ったリバーシゲームです。自分の色の駒を置いて相手の色の駒を裏返すことを交互にくりかえし、終了時点で盤上に自分の色の駒が多いほうが勝ちです。ひらがな駒を置く条件は、相手の駒をはさんだ自分のひらがな駒同士で1つの単語になる必要があります。

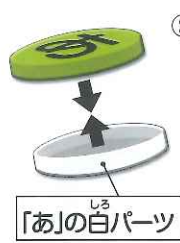
はいているもの

- ひらがな駒…計48個 (緑ランナー…12個×4) ● ゲーム盤…1枚 ● 遊び方説明書(本紙)…1枚
- (白ランナー…12個×4) ● 収納ボックス…1個

駒の組み立て方



① ランナーから同じひらがなが印刷されている駒の白と緑のパーツを図のように回転させて切り離します。
※駒を引っぱって外さないでください。ランナー(枠)が残る可能性があります。



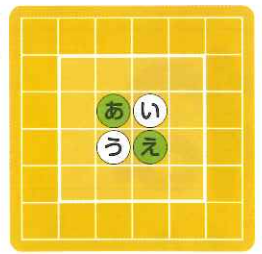
② 切り離れた白と緑の同じひらがなのパーツを合わせ、「パチッ」と鳴るまで押し込んで組み合せてください。
(接着剤等は使いません。)

遊び方

① 互いに好きなひらがな駒を2個選び、図1のように盤面に並べていきます。それ以外の駒は、1箇所にとめておきます。



② 緑の駒が先手でゲームをスタートします。駒を1つ選び、図2のように盤上で相手のひらがな駒をはさんで自分のひらがな駒を置きます。このとき、相手のひらがな駒をはさんだ自分のひらがな駒同士が、単語になる必要があります。はさんだ相手のひらがな駒は、裏返して自分の色に変えます。



● ひらがな駒はタテ・ヨコ・ナメ、どの方向からでもはさめます。

図2

「さ」のひらがな駒を置きます

「あさ」という単語になる

はさんだひらがな駒を裏返し、自分の色に変えます

③ このプレイを交互にくり返し、盤上がひらがな駒で全部うまるか、白と緑の駒がともに相手のひらがな駒をはさめなくなった時(両者手詰まり)がゲーム終了です。このとき、盤上で自分の色のひらがな駒の数が多いほうが勝ちです。

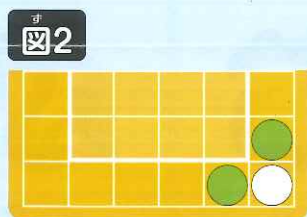
ルール

- 自分の番のときは、かならず相手のひらがな駒をはさんで単語が成立するひらがな駒を置かなければいけません。相手のひらがな駒をはさんで単語が成立しない場合はパスとなります。
なお、単語が成立するかぎり、自主的にパスはできません。
- はさんだ相手のひらがな駒は何個であろうと、すべてを裏返します。
- はさんだ自分のひらがな駒がタテ・ヨコ・ナメに複数箇所あり、すべて単語が成立する場合、すべての方向のひらがな駒を裏返します。

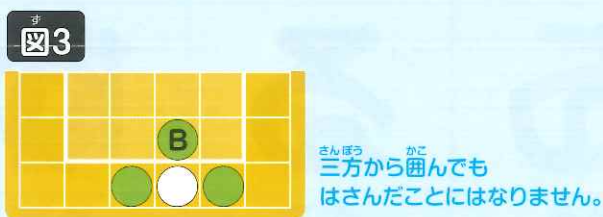
例：図1のように「ち」のひらがな駒を置くと、矢印部分すべてを裏返すことになります。



- 図2の白駒のように、隅にあるひらがな駒は、はさむことができません。

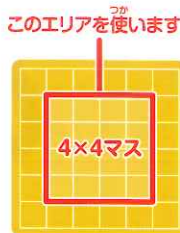


- 図3の例のように、端に白駒があった場合、Bの位置に緑駒を置いても、はさんだことになりません。



4×4で遊ぶ場合

本商品は、4×4マスで遊ぶことができます。図のように、中心から縦横4マスの薄黄色の部分を使い、ゲームを進めます。遊び方、ルールは通常の6×6マスの時と同じです。



濁音、半濁音を用いて遊ぶ場合

本商品には清音のひらがな駒を使用していますが、図4のように濁音・半濁音を使用してもいい、というルールを設けて遊ぶこともできます。



入っている駒一覧

右図の4種類が緑と白それぞれ1枚ずつ入っています。
※文字がない駒は予備としてお使いください。



ハナヤマ お客様相談センター

〒272-0803 千葉県市川市奉免町68
フリーダイヤル: 0120-910-922 (通話料無料)
携帯・PHS・一部のIP電話からは: 047-337-2215
〈受付時間〉月～金(祝・祭日を除く)10～12時/13～17時

<https://www.hanayamatoy.com.jp>

かく ひらがなのしたに 掲載されている 単語は、馬場雄二先生監修の下、代表的な辞書に掲載されていて、
 日常語として使われている単語を例示しています。(固有名詞、人名、地名は除く)

ゲームをする際の参考にしてください。

※「を」は現代仮名遣いにおいては単語には使わず、前の単語と後ろの単語をくっつける時に使います。そのため、本商品ではひらがな駒に含まれていません。

な なす はな	た たけ たこ	さ さい くさ	か かさ かに	あ あさ あり
に にく にら	ち くち みち	し しか しま	き きく あき	い いか かい
ぬ ぬの いぬ	つ つき なつ	す すし いす	く くも くま	う うし うま
ね ねこ はね	て てら たて	せ せみ あせ	け けん いけ	え えき えり
の のり おの	と とら とり	そ そら そり	こ こめ こま	お おに かお

わ

わに
あわ

ら

らん
さら

や

やま
へや

ま

まめ
まる

は

はる
はと

を

まえ たんご うし たんご
前の単語と後ろの単語を
くっつける時ときにつか使つかいます。
例れい:かきをたべる

り

りす
くり

み

みそ
みち

ひ

ひな
ひも

ん

かん
ほん

る

さる
るり

ゆ

ゆき
ふゆ

む

むし
むね

ふ

ふえ
ふね

れ

れつ
はれ

め

めん
かめ

へ

へそ
へや

ろ

ろう
くろ

よ

よる
よん

も

もち
もり

ほ

ほし
ほね